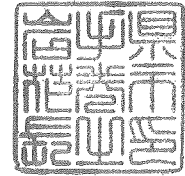


20花土建第98号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

花 巻 市 長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のあった標記について、別添のとおり回答します。

1. 地方における「真に必要な道路」とは・・・どれをとっても「真に必要な道路」である

「真に必要な道路」の議論としてB/C（費用便益費）とか、交通量などの「科学的検証」や「数値」だけで整備の必要性を判断するケースが多いため地方の道路整備はいつまでも置き去りの状態が続く傾向にある。

ここで言いたいのは、地方における「真に必要な道路」とは「数値」の評価などでは判じきれない地方特有のニーズがあるということ。

たとえば、①高規格幹線道路を利用した地方と都市部の物資流通などによる経済の格差是正。

②広域道路の整備による隣接市町村の連携または合併後の広域行政の円滑化。

③市町村道の整備による生活関連の活性化及び中心市街地の再生。

④過疎地における高齢者の医療福祉をささえる「命の道」など。

どれをとっても地方にとっては「真に必要な道路」である。

地方分権制度における「地方でできることは地方で」「地域再生」「格差是正」を実行するためにも、地方における道路整備は必要不可欠な礎であり、今後ともその重要性は変わらない。

このような地方の特殊性・独立性さらに地域の発展のため、新たな中期計画策定にあたっては、「一般財源化された中でもこれまで以上に道路財源の確保・拡大」を強く求めるものである。

2. 道路特定財源諸税の扱いは納税者が納得できる説明を・・・これからは地方の道路整備の番である

道路特定財源諸税の納税実態は、一個人単位で比較すると公共交通機関の利便性が劣る地方部の納税者ほど多くの負担を強いられている。

しかし、高規格幹線道路などの道路整備は大都市優先に進められてきており、なおかつ本州四国連絡橋においては、完成後も債務償還が急務という国の考え方を地方の納税者は理解してきたにもかかわらず、ここにきて「大都市地域の道路整備が一段落したから、地方の道路整備は無駄」というような意見も飛び交っております。

これからは地方が優先的に整備される順番であり、地方の納税者が納得できる中期計画の見直しを図るとともに、少なくとも高規格幹線道路及び地域高規格道路などの国土幹線高速自動車網については、国の責任において計画通りに早期完成されることを強く願うものである。

3. ニーズ合わせた集中投資で政策効果の拡大を・・・スピード感のある道路行政により国民からの信頼回復

新たな中期計画策定にあたっては、目標を10年から5年に見直すこととされたところであるが、必ずしも「縮小化」することなく必要とされる分は必要な分を盛り込んだ計画策定とされたい。

その際、集中投資などにより「スピード感」をもたらし、早期の政策効果を国民に示すことで信頼回復の道路行政を目指していただきたい。

また、目標を「短縮」する事になるので、ニーズの変化には機敏に対応し、場合によっては「政策の見直し」も視野に入れた柔軟性のある計画策定としていただきたい。そういうメリハリをつけた道路行政により国民からの信頼が得られると考える。

○現状

- ・花巻市総合計画の道路行政が担う政策として「交流・移住人口増加で訪れたい・住みたいまちづくり」を目指し、「便利で快適な交通体系の整備」を進めることにより、企業の誘致など県内外から本市への交流・移住人口の増加による社会増を図ることも重要としています。
- ・その政策のもと、道路行政の現状として市道の整備状況を紹介するとともに、市内を通る国道・県道の要望状況を記す。

①【市道の整備状況】（平成20年4月1日現在）

（市道認定 7,225路線、市道の管理総延長 3,286km）

改良率 H18年度 53.2% 舗装率 H18年度 49.8%
H19年度 54.0% H19年度 50.1%
（伸び率 +0.8%） （伸び率 +0.3%）

②【市道等の整備要望】

平成19年度の市内26の振興センター単位毎に要望箇所を絞り込んだ結果は、道路新設・拡幅改良・現道舗装など 合計465件数が集約された。

しかし、その内、平成20年度新規事業化した箇所は 48箇所（10.3%）にとどまり、まだまだ市民の要望に応えるだけの事業費は確保できてないのが現状である。

③【市道の除雪状況】（平成20年4月1日現在）

除雪延長 1,636km（全管理延長に対する除雪割合49.8%）

内ボランティア除雪延長 H18年度 80.1km
H19年度 90.3km（10.2km増加）

④【市内を通過する国道・県道への整備要望】

直轄国道への整備要望・・・2路線 2箇所の要望
補助国道・県道への整備要望・・・17路線27箇所の要望

⑤【市内の道路への整備既成同盟会の状況】

道路整備既成同盟会数・・・10件
内花巻市が事務局を担当・・・6件

○課題

- ・地域の活力の減退を招く最も基本的な課題は少子化などの人口減少対策である。

従って、「魅力あるまちづくり政策」と併せた、従来から市民の意識が高い「生活道路の向上」という要望に答えることにより、本市人口の社会増を図ることも重要な課題として展開する必要があります。

- ・花巻市では、市職員の意識変革に繋がるものとして、全ての行政サービスにおいて、「岩手ナンバー1」を志す取組を展開しています。

その視点で、岩手県内13市の道路整備状況に順位付けすると、改良率・舗装率ともに花巻市は県内13市中9番目と低い位置にあり、市の総合計画での人口社会増を期待できるような道路整備状況とはなっていません。少なくとも他市の平均レベルまで引き上げることが喫緊の課題でもあります。

- ・市内の道路網について満足している市民の割合

H18年アンケート調査結果 53.6%

H19年アンケート調査結果 59.1%（伸び率+5.5%）

このアンケート結果では満足度が延びていることが伺われた。

このことは、限られた予算に対して市民からの要望に沿った整備を着実に実施したことで満足度が高まったものと考えられる。

しかし、まだまだ市民からの整備要望に応える実施率（10.3%）とは言えず、複数年にまたがる大型箇所などを考えると、要望件数は、年々上積みされる一方となり、現状の予算ではとても市民の要望に応えられる状況となっていません。

- ・国道及び県道等の整備要望についても「真に必要な道路」の地域の熱い思いを市が窓口とした既成同盟会などの要望活動により、地方の声を中央へ届ける運動を継続していかなければならないと考えている。

- ・以上、市の道路行政の一部を紹介したが、少子高齢化社会に向けた将来世代に出来るだけ負担のかからない施設整備、「魅力ある街づくり」による市民人口の社会増のために、一般財源化された中ではありますが、道路整備促進のために道路財源の大幅配分をお願いしたい。

1. 既存ストックの老朽化対策

花巻市の社会資本ストックについても、国内の事情と同様に老朽化が進んでいる。特に橋梁については、平成18年度にL=15m以上の橋（98橋）の点検を実施したところ、相当の規模で著しく老朽化が進行していた。

この状況を受けて、花巻市では平成19年度に、アセットマネジメントの考え方を取り入れた適切な時期に十分な補修を行うための長期計画「橋梁長寿命化修繕計画」（暫定98橋分）の策定を図った。引き続き、平成20年度内にはL=15m以上残り（104橋）の点検を早期に実施完了し、平成21年度以降は、L=15m未満の橋梁全て（1050橋）を点検し「花巻市全橋梁の長寿命化修繕計画」を策定することとしている。

今後は、暫定98橋分の長寿命化修繕計画に基づき、平成21年度から順次補修工事を実施していく方針であり、また、その予算の裏付けとしては、維持補修分野への重点投資（予算シフト）が急務であるという考えのもと、地方道路臨時交付金を優先的に要求していくこととしている。

そのほか、将来的には一般市民からの橋梁点検（ボランティア）を本格的に運用させる計画もあり、民間活力なども取り入れた技術開発なども視野に入れた道路整備政策を進めていく所存である。

2. 少子高齢化に対応する道路行政

少子高齢化問題、なおかつ人口減少社会の到来については花巻市も例外ではない。バスなどの公共交通機関の路線廃止なども拍車がかかっており、将来、高齢者の移動手段についても、自動車に頼らざるを得ない状況が拡大すると懸念されている。

そのため、今後は高齢者の視点から安全で安心な社会の構築のため、「どこでも誰でも自由に使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方に基づくバリアフリー化を行政（国・県・市）はもとより、民間の各事業社などにも働きかけることが急務となっている。

また、災害時には高齢者は災害弱者となりやすく、災害時の支援体制を平時から確立しておくべきである。もちろん、まず第一に災害を未然に防ぐ橋梁をはじめとする重要構造物の耐震化、リダンダンシーなどの緊急輸送路の整備などを国・県が率先して整備されることを望むものである。

3. 地域の活力再生

全国的に少子高齢化が進展するなか、花巻市においても、中心市街地の空洞化等を背景に地域の活力低下が進行している。郊外の大型ショッピングセンターが消費の中心となりつつあり、車を前提としたまちづくりが進行している。近年、高齢者が引き起こす事故が増加しており、生活者の視点及び地球環境の面からも車依存の生活は改善されなければならない。

今後は中心市街地への移住を促し、歩いて暮らせる範囲内での生活が出来るコンパクトシティを推進しなければならない。

また、中山間地域（過疎地）では、冬期の除雪の問題を始め、生活道路の維持が困難となっているところもある。中山間地域（過疎地）は、ほぼ高齢者世帯から成り立っており、病院に行くにしても介護サービスを受けるにしても住民にとって負担が大きくなっている。また、公共交通（バス）の経営も成立しづらく行政の負担も大きいものとなっている。

このため、この問題については国が移転のための補助金制度などを積極的に取り入れ、周辺集落の統廃合などを進める検討も必要と思われる。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施設の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

岩手県花巻市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
グローバル化の進展に備えた道路整備	【岩手花巻空港の整備】 ・滑走路を2,000mから2,500mへ延長 ・狭隘だったターミナル地域を滑走路東側へ移転 ・ターミナル移転によるアクセス道路の新設整備 ・平行誘導路の整備促進など場内のレイアウト見直しによる利便性拡大	・冬期間の安全性確保 ・定期便とチャーター便が同時に対応できるという就航率の向上により市場の拡大 ・現在のターミナル位置での交通混雑解消と新ターミナル設置箇所周辺地域への活性化対策 ・国際チャーター便の運行拡大	隣接する流通団地のスピード化と確実性の向上 大型無料駐車場の設置に伴う利便性向上など交流拠点として強化
地球規模で深刻化する環境問題	【市庁舎内での環境3R徹底】 ・温室効果ガス総排出量把握調査の実施 ・資源の再利用（ペーパーレス化・裏面再利用推進） ・アイドリングストップなどのエコドライブの推進 ・グリーン購入の推進	・ISO14,000の考え方を踏襲した取り組み及び循環型社会の形成促進で諸経費の削減・地球環境対策	リデュース リユース リサイクル
既存ストックの老朽化対策	【橋守制度】 ・花巻市内1,050橋ある橋梁の点検を職員のみで定期点検することは不可能なので民間活力（市民ボランティア）などを期待するもの。 【橋梁長寿命化修繕計画の策定】 ・全国の市町村に先駆けてH18→98橋の点検 H20→104橋の点検 H21以降→848橋の点検 により、アセットマネジメントを取り入れた修繕計画を策定	・市民に対して社会資本の重要性などを理解していただく。 ・放置しておくとかがては架け替えの対応となり莫大な予算が必要となってしまう。（ライフサイクルコスト）を取り入れて突出した維持補修費を避けた長期財源計画を図る	アセットマネジメント
防災における安全・安心社会の確立	【公共建造物の耐震化】 ・市営住宅、学校、図書館など公共建築物といった個々の構造物の耐震化 ・交通インフラの耐震性（高速道・直轄国道との立体交差している市道橋梁の落橋防止） ・生活道路の整備による緊急車両進入道路の整備促進	・高齢者が増加しており、災害時要介護者が急増していることから、地域コミュニティを活発化し、お互いの助け合いを助長。 ・ハード対策はもちろんのことソフト対策（避難場所周知など）についても各地域において徹底することとしている。	自助、公助、共助